

吾妻山の火山活動

吾妻火山群は、繰り返される噴火により 30 万～6,000 年前に形成されました。一部の頂は今でも活動が続いています。一切経山（1,949 m）は東北地方でもっとも活発な火山で、この山に複数ある噴気地帯の 1 つである大穴火口からは継続的にガスが噴射されています。一切経山は厳重な監視下にあり、火山学者達は噴火の可能性が高いと考えています。

1893 年に起きた一切経山の大きな噴火では、付近を調査中だった技師が 2 名亡くなっています。火山灰と火山ガスは上空 2,000 メートルまで立ち上り、溶岩の破片や灰が燕沢の複数の火口から大量に噴出されました。1977 年に起きた一切経山の最後の噴火は比較的小規模のものでしたが、それでも火山灰は 4 キロ先までとどきました。

妻火山帯は、活動が常時監視されている日本の 50 区域の 1 つです。気象庁では、5 段階の噴火警戒システムを使って活火山を分類しています。レベル 1 が最下、レベル 5 が最高警戒レベルです。浄土平エリアは、通常、レベル 1（活動が激しくなる可能性がある）を維持しています。ただし、一切経山周辺の警戒レベルが 2 以上になると、磐梯吾妻スカイラインを含めた浄土平エリア一帯は封鎖されます。

訪れる際は、気象庁のホームページ

(https://www.jma.go.jp/en/volcano/map_1.html) で噴火警戒レベルを確認しましよ

う。